# Web 版 幼児教育史学会 全報 第 32 号

#### 目 次

第17回大会開催案内 ····· 大会実行委員会

幼児教育史講座 上巻 刊行案内 · · · · · · · · · · · 太田 素子

新入会員自己紹介 ····· · 新庄洸、柴田賢一、金森由華

寄稿ハンス・フォルケルト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・勝山 吉章研究会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・塩崎 美穂

新入会員·会員異動 / 寄贈図書

事務局からのお知らせ



#### 第 17 回大会開催案内

第17回大会は、2021年12月4日(土)に上智大学で開催いたします。

上智大学では 2005 年 12 月 10 日に幼児教育史学会第 1 回大会を開催して以来、17 年ぶりの開催となります。 第 1 回大会では、宍戸健夫会長より幼児教育史学会発会の挨拶があり、その後、研究発表 4 件、と宮澤康人先生による講演が行われ、熱気溢れる議論が展開されました。会場となった 6 号館は現在ソフィア・タワーに生まれ変わり、17 年の歳月を感じます。

昨年の第 16 回大会は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催となりましたが、今回は現在のところ、対面での通常開催を予定しています。大学の授業も 4 月からは大規模講義を除き、対面+オンラインによるハイフレックス授業を実施しており、感染予防を万全に行えば、50 人規模の大会は開催できると考えています。ただし、感染状況によっては、オンライン開催に切り替えざるを得なくなることをご承知おきください。プログラムの発行までには開催形態を決定し、学会ホームページにてお知らせいたします。

シンポジウムは、本学会の創設 15 周年を記念して刊行した『幼児教育史研究の新地平―近世・近代の子育てと幼児教育―』(上巻)の検討を踏まえて、幼児教育史研究の成果と課題を問うことを企画しています。

プログラムは 10 月に発送する予定ですが、最新の情報は学会ホームページで適宜お知らせいたします。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

(第17回大会実行委員長:湯川嘉津美)

#### 大会開催要項

1. 期日:2021年12月4日(土)大会

2021年12月5日(日)関連企画

- 2. 会場:上智大学四谷キャンパス
- 3. 大会日程(予定)

9:00~受付9:30~13:00研究発表14:00~16:30シンポジウム

16:45~17:30 総会

#### 4. シンポジウム

#### テーマ:幼児教育史研究の成果と課題

―『幼児教育史研究の新地平』の検討を踏まえて―

提案者:太田素子(和光大学名誉教授)

勝山吉章(福岡大学) 椨瑞希子(聖徳大学)

指定討論者:オムリ慶子(関西学院大学)

松島のり子(お茶の水女子大学)

司 会 者: 湯川嘉津美(上智大学)

#### 〈趣旨説明〉

幼児教育史学会の創設にあたり、学会に期待されたのは、幼児教育史研究を促進し、幼児教育の学問的進展と若い研究者の育成に貢献することであった。創設後16年が経過した今、幼児教育史研究は盛んに行われるようになり、若い研究者による優れた博士論文も出されるようになった。そうしたなかで、学会にはこれまでの研究の成果をまとめ、幼児教育史の研究水準を示すことが求められるようになった。今回の学会創設15年周年を記念して企画された『幼児教育史研究の新地平』はそうした声に応えるものである。

そこで、シンポジウムでは『幼児教育史研究の新地平―近世・近代の子育てと幼児教育―』(上巻)の編集・執筆を担当した太田素子・勝山吉章・椨瑞希子の3人の会員に、本書の検討を踏まえて幼児教育史研究の成果と課題について提案をいただいた後、オムリ慶子会員、松島のり子会員によるそれぞれの専門の立場からのコメントをもとに討論を行い、研究の成果と課題の共有を図りたいと考えている。会員の皆様には本書をご一読の上、討論に加わっていただきたい。

#### 5. 大会参加費

会員・非会員ともに1,000円、大学院生は無料(受付で学生証を提示してください)。なお、今回は懇親会の開催はいたしません。

# 6. 研究発表の申し込み

#### ① 申し込み方法

第17回大会の申込書は、学会HPからダウンロードしてください。9月13日(月)までに記入済みの「研究発表申込書」を電子メールに添付して学会事務局へお送り下さい。

宛先:admin☆youjikyoikushi.org 数日内に到着メールを送信します。

- ② 発表資格
  - ・一般会員:申し込み時に年会費を納入済みのこと ・新入会員:申し込み時までに入会手続きを終え、年 会費を納入済みのこと
- ③ 発表時間

1人(1グループ)あたり30分(質疑応答5分を含む)を予定していますが、変更する可能性もあることをご了解ください。

④ 発表受付手順

学会事務局で申し込みを受領した後、理事会にて 発表内容を検討します。その結果、発表数調整のため、個別に連絡を差し上げる場合があります。

# 7. 関連企画(愉フォロ会)のご案内

大会翌日「海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会(愉フォロ会)」を開催いたします。 対面であれば2号館14階教育学科会議室にて、オンラインの場合には追って詳細をご案内します。

日時: 12月5日(日) 9時半から

内容: 加藤繁美 『保育・幼児教育の戦後改革』(ひとなる書房、2021年)の読書会、著者をまじえ、戦後の保育史について考える時間を予定しております。

(幹事:塩崎美穂)

# <大会に関する問い合わせ先>

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 上智大学総合人間科学部 湯川嘉津美研究室気付 幼児教育史学会第17回大会実行委員会

電話:03-3238-3586

E-mail:k-yukawa\pricessophia.ac.jp

#### 幼児教育史講座 上巻 刊行案内

# 学会が初めて編集した論集

# 『幼児教育史研究の新地平(上巻)』が刊行されました!

太田素子

#### 斬新な構成にご注目ください

『幼児教育史研究の新地平』2巻本の、上巻には「近世近代の子育てと幼児教育」、下巻には「幼児教育の現代史」というサブタイトルが付いています。通史なのですが、下巻が「現代史」という分け方になっていて、かなりユニークだと思います。編集委員会が今の時点で大切にしたかった課題がここから伺われます。

下巻は現在編集中、年内刊行の予定で編者代表の 小玉会員、一見会員が奮闘中ですが、戦後改革を戦 争と保育という視座から見据えています。また、7 0年代前後の教育内容の現代化運動と保育の関連 を、初めて歴史的な視野から分析しようとしていま す。さらには現在進行中の世界の幼児教育・保育改 革を各国の歴史的文脈をふまえて読み解こうとして います。こんな大胆な編集は、小さな学会だからこ そ可能だったのかもしれません。成功しているかど うか、どうぞご検討ください。

#### 同時代史の有効性について

上巻は、下巻に比べると地味かもしれません。しかし、先行研究が分厚い近代幼児教育制度の成立や保育と幼児教育の関係史を、関係する先行研究に目配りした上で最新の成果を盛り込み、凝縮した論述でわかりやすく論じています。このわかりやすさの一つの要因は、同時代史という視点にあります。

「海を渡る幼稚園」というフレーズの持つ力は大き く、フレーベルのキンダーガーデンの世界的な広が りと同時に、受容する各国の保育や子育ての状況、 制度化の個性を逆照射しているようなところがあります。執筆者は各国保育史研究を代表する方々で、 大胆な構成に負けない確かさを堪能していただける と思います。「幼稚園令」の成立過程や性格につい て、幼稚園、保育施設二つのサイドからの解釈な ど、この学会でなければ生まれない研究だと思います。

#### 近世と近代

近代移行期を正面から取り上げた点も珍しいと思います。近世の子育ては民俗学の引用で済まされることが多かったのですが、歴史研究の実証性を担保しながら近世の子育てを何処まで解明できるか、史料の掘り起こしも努力しています。近代移行期を研究する意味は、近代を相対化すること、帝国主義競争の中で実際に実現した近代と、未発の近代の可能性・必要性の芽を再認識しておくことと考えています。日本中心になってしまったので、今後の課題も大きい研究領域です。

#### 知的探求の工房に

編集した第5期理事会は、とても楽しんでこの本の編集をしました。保育者養成の仕事は忙しいのでこれまで記念出版がなかなか実現できなかったのですが、今回は構成が確定するまでなんども、全体で、あるいは部分で集まって議論を重ねました。知的探求の場として楽しかったことが出版にこぎつけた要因の一つと思います。そして理事一人一人の現代の課題への深い関心が、生き生きとした探求を支えたように思います。

幼児教育史学会 15 周年を記念して、『幼児教育史研究の新地平(上巻)』が刊行されました。 昨年度の会費を納入済みの方、今年度新たに入会され会費を納入された方に、お送りいたします。 昨年度分の会費をまだ納入されていない方は、8 月末までに納入して頂ければ、追って送付いたします。 問い合わせは幼児教育史学会事務局までお願いいたします。

# 新入会員からの自己紹介文 ( 今後、ご寄稿あり次第、掲載させていただきます)

#### 旧制高校知識人研究から男性保育者の歴史研究へ

はじまして。私、この度学生会員として入会させてい ただきました。新庄洸と申します。

現在、関西大学文学研究科総合人文学専攻教育学コースの博士課程(多賀太研究室)に在籍しております。ここまでの学生生活、研究生活はともに紆余曲折ございましたが、この度、入会・参加が念願でした幼児教育史学会に入会させていただき、大変有り難く思っております。

さて簡単ではありますが、私のこれまでについてお話しさせてください。

そもそも日本の旧制高校、知識人を中心とした研究をしたいと思い、飛び込んだ修士課程でしたが、興味の対象はいつの間にか、「男性の保育者」と変わっておりました。と申しますのも家業として保育園を経営しておりまして、改めて「男性の保育者の歴史」に興味を持ったからであります。

現在、家業を継ぎながら、多賀先生のもとで男性保育者の歴史・マスキュリニティ理論を全体の中心の理論として援用した博士論文の執筆を目標としています。

「仕事が忙しいので・・・」という言い訳をしないように、 しっかりと研究を進め、次回の大会発表、投稿を目指 して頑張ります。

未熟者ですので、学会等交流の機会の際は、何かと ご教示を賜りたく存じます。

何卒よろしくお願い致します。

関西大学文学研究科総合人文学専攻教育学コース 博士課程 新庄洸

#### 16-17 世紀イングランド家政論から

今年度より入会させていただきました、柴田賢一と申します。熊本県の尚絅大学短期大学部で保育者養成に携わり、主に教育原理、保育内容総論を担当しております。西洋教育史を専門としており、本学会には、第8回大会(2012年、福岡大学)の「海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会」で報告をさせていただいて以来、毎年のように入会申し込みをせねばと思いつつ、この度ようやく入会させていただくに至りました。

研究の主な関心は、古代ギリシアにルーツを持つとされ初期近代のヨーロッパで再び興隆を見た「家政論」(oeconomia)とよばれる文献群を主な分析対象として、そこにみられる「産み」「育て」「教育」「生活」などの子どもを産み・育てることに関する語彙の概念や、それらの営みの変遷を明らかにしていくことにあります。主な時代とフィールドは16世紀から17世紀のイングランドですが、家政論はその後も内容を変えつつ近代日本には「翻訳家政書」として入り込んでおり、近代日本の教育と生活についても分析を進めていくことができればと考えております。

本学会には日頃の教育、研究において文献等を通して学ばせていただいている先生方も多数在籍されており、これからの学会活動で学ばせていただけることを楽しみにしております。よろしくお願いいたします。 尚絅大学短期大学部 柴田賢一

#### 養成課程における史実の学びと短期指導計画の成立

このたび幼児教育史学会に入会させて頂くことになりました、金森由華と申します。保育者経験を経て、現在は至学館大学で保育者養成に携わっております。 授業で保育の歴史を教えながら、現在、保育者として当たり前のように行っていること全てに、歴史があり、成立してきた過程があることに、あらためて感銘を受けております。そして、保育を学ぶ学生に、史実からの学びの面白さをどのように伝えたら、この感動を共有できるのか日々悩んでおります。

また、保育者養成校で勤務しながら、学生や若手の 保育者が指導計画の作成に苦手意識を持っているこ とに、気がつきました。そのような中で、指導計画の主 に短期指導計画は保育の中でどのように取り入れら れて、成立していったのかに興味をいだくようになりま した。

若手保育者や保育を学ぶ学生が嫌いなことトップ2 になるのではないか……と、勝手に思っている指導計 画と保育の歴史の学びを、さらに深め、その魅力を正 しく伝えたいと思っております。

私自身の学びが浅く、お恥ずかしいことばかりですが、皆さんから様々なことを学ばせて頂きたいと思っております。

至学館大学 金森由華

#### ハンス・フォルケルト

# ーこてこてのナチスでドイツの幼児教育を褐色(ナチス色)に染めたが戦後は何の反省もしなかった大学教授ー 勝山吉章(福岡大学)

フォルケルト(Hans Volkelt:1886-1964)は バーゼルで生まれ、ライプチッヒ大学で動物心理 学の研究で学位を取る。同大学の私講師からはじ まり、発達心理学や政策教育学の特任教授を努め ながら、同大学に設置された国民学校教員養成所 の校長を務めた。1932年からのナチス党員で 33 年にナチスが全権を掌握してからは、古参党 員として SA(ナチス突撃隊)やナチス教員連盟に おいて頭角を現す。1935年10月には、ドイツ・フ レーベル連盟(DFV)の会長となり38年末まで機 関誌『キンダーガルテン』(44年2月に休刊)の編 集をする。39年には学内に心理教育研究所を設 置。フォルケルトはライプチッヒ大学の正教授にな りたがっていたが、ドイツ心理学会に突撃隊の野 戦服で現れるなど、あまりのナチス傾倒に反撥した テオドール・リットの反対もあって特任教授のまま 敗戦を迎えた。戦後は素知らぬ顔で心理学研究に 戻り、バーデンのビーティヒハイムで退職教授とし て過ごした。



突撃隊のハンス・フォルケルト(Professorenkatalog der Universität Leipzig - Die Professoren-Datenbank für Leipzig)

動物心理学を研究していたフォルケルトだが、ドイツの全体主義的風潮のなかでドイツ民族の遺伝的優位を説きながら、人間の諸器官や認知、心情、身体の統一を唱える全体心理学

(Ganzheitspsychologie)を提唱する。個別なものが全体的なものに統合されるという彼の学問

研究は、フレーベルの球体法則や部分的全体 (Gliedganzes)の思想と親和的となる。やがて 彼は、個々人は自己を犠牲にして、全体=民族共 同体に奉仕するのがフレーベルの教育理念である とドイツ・フレーベル連盟を統合したナチス教員連 盟で演説するようになった。そもそもフレーベルの 部分的全体の思想は、個と全体の同等を説くもの であり、個は全体のために、全体は個のためにあ るとするもの。それ故、三月革命でフレーベルは自 らを共和主義者と称したのだが、フォルケルトはそ れを全く換骨奪胎している。そしてフレーベルの対 ナポレオン祖国解放戦争への従軍を、自己犠牲の 精華と賛美した。

また彼は、フレーベルのカイルハウ学園で青少年を対ナポレオン戦争へと導いたヤーンの体操が行われていたこと、また、彼の幼稚園で運動遊戯が行われていたことを取り上げ、それらは幼児期から児童生徒期を見通した軍事教練の基礎であり、民族共同体の兵士を育成することと通底していると述べた。雑誌『キンダーガルテン』のなかに戦争ごっこの指導方法が掲載されているが、編集長フォルケルトが喜々として取り上げたのだろう。



雑誌『キンダーガルテン』に掲載された戦争ごっこ遊具の 作り方

Manfred Berger(2015):Gelobt sei alles, was hart macht より



英霊ごっこ Manfred Berger(2015):Gelobt sei alles, was hart macht より

フォルケルトは、ナチズムが求める命令と服従の 原理を幼児教育にももたらしたが、心理教育研究 所の研究からフレーベルの遊具の改良も考案し た。恩物にアーチ型の積み木を加えるなどの努力 もしている。

フォルケルトは第一次大戦から「戦争の賛美者」 と自称していたという。彼にとっては、ドイツ第二帝 政と第三帝国(drittes Reich)は連続しており、 ヴァイマル期は単に特殊な時期に過ぎなかった。こ ういうドイツ人は多い。したがって筆者は、第三帝 国ではなく、「ドイツ第三帝政」と論じるのが妥当と

#### 考えている。

Manfred Berger(2018):Hans Volkelt(1886-1964), Niedersächsisches Institut für frühkindliche Bildung und Entwicklung Hans Volkelt(1934):Unser Weg, IN:Kindergarten 75.Nr.1 (お茶の水女子大学附属幼稚園所蔵)



フォルケルトが考案したアーチ型の積み木を含む恩物で遊ぶ子ども(Manfred Berger,2018より

# 研究会について「海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会」

本研究会、「愉フォロ会」(略称)について、紹介 させていただきたいと思います。

2008年3月、西洋教育史が専門である宮澤康人先生から「海外の幼児教育史」を共に研究する場が必要ではないかといった提案がありました。それぞれに異なる文化的背景をもつ諸地域を対象とする研究では、当該地域に固有の歴史的文脈の理解と同時に、同時代に通時的にあった普遍的時代潮流を把握する必要があるだろう。そのためには、丁寧な先行研究収集が必須であり、更新されていく学説、あらたに俎上にあげられるようになった史料、地域を超えて注目される論点などの知見をもつ必要がある。にもかかわらず、先行研究の把握というのは、手間ひまがかかる上に難しい。ある程度、共同で研究する必要があるのではないか、というお話しだったと私は記憶しています。

現在の本学会長 湯川嘉津美氏に場所を借り 上智大学の一室で開かれたその小さな集りの場に は、岩崎次男先生と「海外の幼児教育史」を研究し てきた実績のある本学会員の椨瑞希子氏、阿部眞 美子氏、別府愛氏もおり、「海外の幼児教育史研 究動向を把握する」研究会を始めましょう、ということになったわけです。

その際、基本的に歴史研究は史料を一人黙々と読む、いってみれば地味な作業の連続ではあるけれど、自分の専門とする地域以外の歴史にふれる「愉しさ」を味わい、あたらしい知見にふれることも「愉しみながら」研究動向を把握していきましょう、と語られたことが印象的でした。

研究会が始まって13年ほどになります。私が担ってきた事務の不備のために、「学会誌(幼児教育史研究)や会報への研究報告などをしながら、海外の幼児教育史の研究を学会員に紹介する」という当初の目標はなかなか果たせないままです。ただ、保育にかかわって注目される研究や、学会で報告する前段階の研究ノート的な構想を検討する機会をつくってきたことにも、それなりの意味があったのではないかと思っています。保育にかかわる海外の歴史研究が量も質も十分とはいえない状況であることに、残念ながら研究会開始期から変化しているとはいえません。引き続き、個別作業になりがちな歴史研究を共有する場をもつ方途を探っていきたいと思います。

塩崎美穂(東洋英和女学院)

# 新入会員・会員異動 (2021.4.1~2021.6.29)省略

## 寄贈図書 (2021.3~2021.6)

近藤幹生・幸田雅治・小林美希編著『保育の質を考える-安心して子どもを預けられる保育所の実現 に向けて』2021 年、明石書店

幼児教育史学会監修、太田素子・湯川嘉津美編『幼児教育史研究の新地平<上巻>-近世・近代の 子育てと幼児教育』萌文書林、2021年

# 事務局からのお知らせ

#### 1) 会費納入のお願い

本学会の会計年度は 10 月 1 日から翌年の 9 月 30 日までです。振込用紙は、第 16 回大会年度 (2020年 10 月 1 日~2021年 9 月 30 日)とそれ以前の年度の会費が未納の方にお送りしております (2021年 6 月末確認)。宛名シール上に記載された未納分年度をご確認のうえご納入ください(シールの記載と振り込み用紙のない会員は完納状態にあります)。本状と行き違いでご納入の場合には、何卒ご容赦ください。

年会費: 一般会員 7,000 円、特例会員(学生·退職者等) 4,000 円

送金先: 郵振口座番号 00190-9-73668

加入者名:幼児教育史学会

## 2) 「会報」への原稿募集

会報を通じた情報提供と交流を随時はかっています。会員からの研究情報、自己紹介文、幼児教育史研究への提言、関連エッセイなどを事務局までぜひお寄せください。年 2 回の会報発行時までに届いた分を調整の上、掲載いたします。次回会報は 2022 年 2~3 月頃を予定しています。

#### 3) 所属・住所などの変更届けに関するお願い

変更が生じた場合は、もれなくメールにて学会事務局までお知らせください。



幼児教育史学会会報 第 32 号
2021年 7月 5 日
発行者 幼児教育史学会
113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院教育学研究科 浅井幸子研究室気付
幼児教育史学会事務局
E-mail: admin☆youjikyoikushi.org
郵便振替 00190-9-73668
編集 塩崎美穂 印刷 木元省美堂